

STANLEY KUBRICK'S FILM FESTIVAL

シヤイニング

★今世紀最大のモダン・ホラー最高傑作！

THE SHINING



スタンリー・キューブリック作品
ジャック・ニコルソン／シェリー・デュバル
原作 スティーブン・キング
製作・監督 スタンリー・キューブリック
製作総指揮 ヤン・ハラーン

スタンリー・キューブリックの世界が
また一歩、近づいて来た……！



衝撃の未来が——いま、戦慄の現実に変貌した！

スタンリー・キューブリック・プロダクション
マルコム・マクドウェル／バトリック・マギー
脚本 スタンリー・キューブリック
原作 アンソニー・バージェス
製作・監督 スタンリー・キューブリック

CLOCKWORK
ORANGE



時計じかけの オレンジ

「2001年宇宙の旅」いらい三年ぶりに発表したが、この「時計じかけのオレンジ」である。

この作品でも、レープ（強姦）とウルトラ暴力とベートーベンだけが生きがいの若者のアドベンチャー、という驚くべき題材に取りくんで独特のキューブリックの世界をくりひろげている。

イギリスの作家アンソニー・バージェスの同名小説に基づいて、キューブリック自身が脚本を執筆、製作・監督にあたっており、その痛烈な映像芸術が、全世界に華々しい話題をまいた映画史上空前の問題作である。

主人公の少年アレックスを演じているのは、マルコム・マクドウェル。ほかに、アイルランド生れの名優パトリック・マギー、さらにアドリエヌ・コリ、ミリアム・カリーンなどイギリスの名女優が熱演している。

キューブリックの作品は10年先を行くと公開当時に絶賛されたが、いまその10年後を迎え、現実に「時計じかけのオレンジ」に描かれた事件が起こっている。校内暴力に始まって、横浜では中学生による浮浪者殺害事件、そして、戸塚ヨットスクールのような残虐な矯正施設の出現、そして当のイギリスの若者たちの間ではバンク・ファッションが大流行しているのだ。まさに今世界は「時計じかけの……」様相を呈して来た。



スタンリー・キューブリック作品

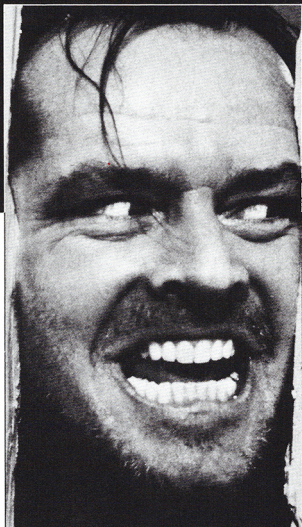
時計じかけのオレンジ

Stanley Kubrick's A CLOCKWORK ORANGE

THE SHINING

シャイニング

■ニューズウィーク誌「ジャック・クロール」評
キューブリックは《シャイニング》で《2001年宇宙の旅》が他の宇宙映画に占める位置と同様の位置を恐怖映画において占めた。
《2001…》で宇宙飛行士は別の生き物になったが、《シャイニング》でニコルソンは別の人間になる。
ニコルソンの役は元教師で現在は売れない作家ジャック・トランス。妻のウェンディ（シェリー・デュバル）と7才になる息子ダニー（ダニー・ロイド）を連れて雪に閉ざされた由緒あるホテルに冬の間、管理人として雇われる。ホテルのマネージャー、ウルマン（バリー・ネルソン）は前の管理人一家の事件を彼に聞かせる。2人の小さな娘を斧で惨殺し、妻を射殺し、自分はシヨットガンで頭を吹き飛ばして自殺した。おそらく孤立と孤独から気がふれたのだと思う……と。
その時、自分にはそんな心配は無用だと笑うニコルソンの顔と、後にホテルに棲みやすく悪霊にとりつかれたニコルソンの顔との変貌ぶりは、今でも私に寒気を感じさせる。
これは恐怖と共に知性を感じさせる映画である。タイトルの《シャイニング》とはダニー少年の持つ超能力のことである。キューブリックのカメラはそれ自体悪霊のように、三輪車で廊下を走るダニー少年や、夫から逃げるウェンディを追って行く。パニックや恐怖がこのような奇妙なリズムで振り付けされたことはない。不協和音のむせぶようなサウンドトラックは魅惑的であり、同時に恐怖を呼び起こす素晴らしいものを持っている。



11月19日(土)ロードショー

伊勢丹斜め向
三越ならび

新宿京王2

(356)
3518